

総務財政委員会行政調査報告（令和6年度）

総務財政委員会委員長 上 畠 寛 弘

1. 日程

令和6年8月26日～8月28日

2. 調査項目

- (1) 青森空港（8月26日）
 - ・国際便就航への経緯等
- (2) 弘前市役所（8月27日）
 - ・弘前ねぷた位置情報発信システム導入への経緯
- (3) 箱館奉行所（8月27日）
 - ・箱館奉行所の歴史とその影響について等
- (4) 五稜郭タワー（8月27日）
 - ・五稜郭タワーの及ぼす影響について等
- (5) 函館市国際水産・海洋総合研究センター（8月28日）
 - ・産官学連携等

3. 委員長所見

今回の視察では、2泊3日の行程で①青森空港②弘前市役所③箱館奉行所④五稜郭タワー⑤函館市国際水産・海洋総合研究センターの5か所を視察した。

青森空港においては、主に国際便の就航までの経緯等を教えていただいたが、神戸空港の国際化に向けて、空港の規模感からしても有益な情報が多くあった。当たり前の話ではあり、函館でも同様の現象が見られたが、就航先の選定はとても影響が大きい。台湾便が就航した後は、コロナ禍を除き台湾からの観光客がコンスタントにあり、宿泊先ホテル、ねぷた祭り、五稜郭周辺を始め、欠かせない訪問客となっている。実際に、函館で宿泊したホテルでも、多くの海外観光客を確認できたとし、五稜郭タワーでもチケット収入源として欠かせない層となっていた。神戸 - 弘前も FDA で結ばれたのを契機に、観光客は勿論、自治体同士の結びつきも強固なものになった。今回の視察においても、弘前市議会議長と弘前市長とも直に交流することができ、地域交流の大切な場である祭りの運用などについて、互いの共通項や課題等を確認することができた。今後は人事的な交流なども進めていくことができれば、定期便の増便などに繋がる可能性もある。例えば、神戸市中央区に居を置く通販大手「フェリシモ」においては、定期便の就航を契機として「フェリシモ青森部」が社内に発足し、独自の関連製品（金魚ねぷたをデザインしたポーチ）を開発するなど、ビジネス交流も進んでいる。神戸空港においても、就航先の選定においては、ビジネス交流の模索、歴史的な繋がり、就航した後の神戸における影響などを考慮しながら進めていくことが重要であると改めて感じた。

また、函館市に関しては、神戸市との共通点や課題を確認することができた。函館国際水産・海洋都

市推進機構の事務局長からもお話があったが、市内に魅力的な産業、特に若者に訴求する勤務先が少なくなっている（もしくは他都市が魅力的に見えてしまう）ことが課題となっている。これは少なからず神戸市にも当てはまることである。函館市では、とくに海洋人材の流出を防ぐためには「幼少期から」海洋分野に触れてもらい、市内には、こんな素晴らしい技術や資源、環境があることを認識してもらい、地元に対する愛着を育てることがとても重要であると話されていた。神戸市においても、人口の流出は大きな課題の一つである。海洋分野に限らず、幼少期からホンモノに触れる機会を創出し、神戸市の持つポテンシャルに誇りを持ってもらい、さまざまな機会において神戸市に還元したいという気概を育てていくことの重要性を感じた。

(1) 青森空港（8月26日）



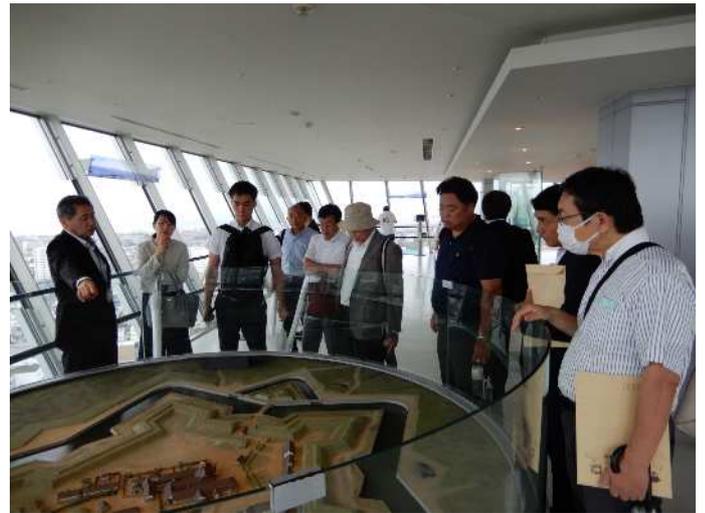
(2) 弘前市役所（8月27日）



(3) 箱館奉行所（8月27日）



(4) 五稜郭タワー (8月27日)



(5) 函館市国際水産・海洋総合研究センター (8月28日)

